

# 悪名高き石の繊維

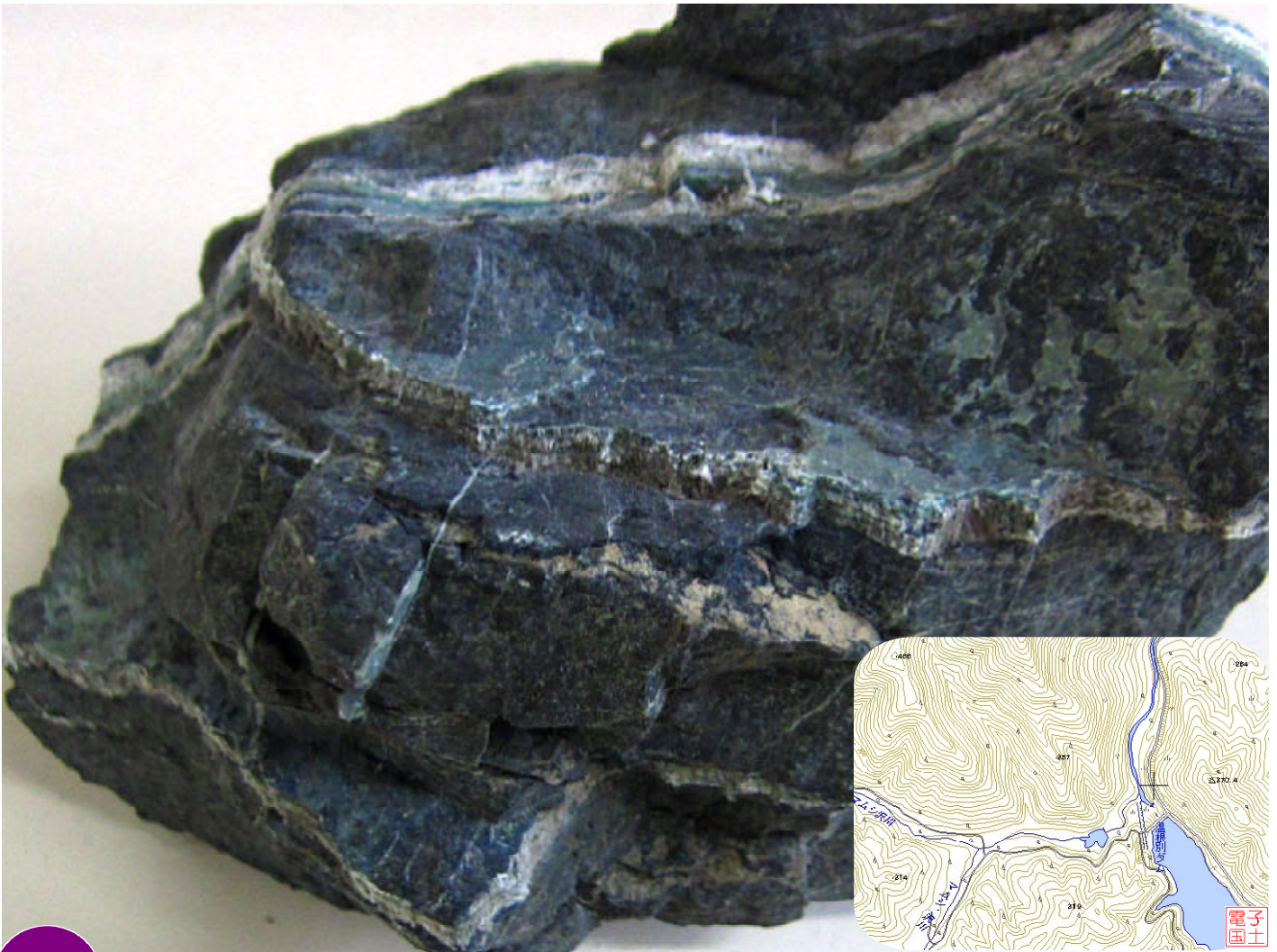
岩石名

蛇紋岩中の石綿 Asbestos  
(いしわた・せきめん)

時代 中生代白亜紀

地質区分 幌加内オフィオライト

産出地 士別市温根別ダム



## 解説

### 熱や摩擦に強い繊維

石綿の仲間の白色の「白石綿（クリソタイル）」は耐熱性・摩擦性に強く、かつては自動車のブレーキパッドや建築物の断熱材などとして広く利用されていました。しかし、現在は「アスベスト」の名で、肺ガンを引き起こすものとして悪名高き鉱物となりました。

アスベストの産地として北海道では富良野市野沢鉱山が有名ですが、蛇紋岩や角閃岩には普通に含まれており、士別市温根別ダム周辺の大規模な蛇紋岩体にも石綿が含まれています。しかし、危険なのは取り出した石綿をほどこした状態（目に見えないほどの非常に細



石綿の拡大写真

かな粉末が多量に飛び散る状態）であり、岩石中の天然の石綿を手にとってみる程度のことであれば、粉末状に飛び散る危険はなく、恐ろしがる必要はありません。

### 石綿（アスベスト）※厚生労働省HPより

石綿（アスベスト）は、天然に産する繊維状の酸塩鉱物で「せきめん」「いしわた」と呼ばれています。繊維が極めて細いため、研磨機、切断機などの施設での使用や飛散しやすい吹付け石綿などの除去等において措置を行わないと石綿が飛散して人が吸入してしまうおそれがあります。以前はビル等の建築工事において、保温断熱の目的で石綿を吹き付ける作業が行われていましたが、昭和50年に原則禁止されました。その後も、スレート材、ブレーキライニングやブレーキパッド、防音材、断熱材、保温材などで使用されましたが、現在では、原則として製造等が禁止されています。

石綿は、そこにあること自体が直ちに問題ではなく、飛び散ること、吸い込むことが問題となるため、労働安全衛生法や大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律などで予防や飛散防止等が図られています。

### 調べてみよう

- 石綿の利用方法を調べ、どうして石綿が使われたのか、その理由を考えてみよう。